真角發句集

上

へ 5
4310
1

へ 5
4310
1-2

其角發句集

附千代女句集

明治十六年五月補刻

文玉圃樣

京都帝國大學圖書之印

其角發句集

坎窩久戚考訂

故横山有策氏
昭和四年五月寄贈
京都帝國大學圖書之印

春之部

日の春をさしてのよる鶴の毛衣

霜ひとり貴れぬ日ハなく江戸の春

霞さもいのまき新例淵生くくふくゝ孵くる

題黄金

月年をへす一万牧狂歌代業

世の中の栄螺も鼻をのの花

松のうゑ伊勢の家ゆふ人を誰

へ5
4310
1

祇園町年居紅うやて
はあしの松もかすさそ紅葉ふり
ぬるしるしや家中も礼を星月夜
時雨夜乃ほのうよう迄し　嫁のきそ
元日や月又ぬ人出　橋乃松
元日の岩蔵十乃指くゝ折し
そうろうや出時乃裏四　大　下
手握蘭口合難舌
四月雨ふやはよ　葉はめ
はる長乃野見乃春の物そう

言物作の松成十六年方著のため
しなひ乃しらり故うもそ連歌は
つふ志乃乃松八枝葉百間ほ広く
諸木ふと好る景色他紙なし
蓬莱乃書ふ才たてそ曽根の松
蓬莱の讃
時そう三の書院乃かもおて
庭竈牛も雅老を居りもそ
春王正月老
生死ぬ者のし男地ふ水ふ

まつし紀友よ
こなたにも女房うせんを祝ひ
ゐるよ　松風のをとをかすかに涼しさよ

福禄寿の賛

長きはや年ぬしの乗法師
ちゐ爰や額に扇ら春
宝引の角をたくく也

宝引の懸

保昌うちうひくゐを胴あうら
衆嵐入腰乃夢をひきて

引つまくく松をどくくに嵐このまよ

大根画讃

兵ぬん　ものくく姫うりうに郎
松ゐ代やまゐきさまはまつ風くく
芝さくく　岩くく尾上の春おろし
帯さゐぬそ神代おくゐ　踏歌宴
軽子帝かまくく帳乃三枚目

十一日

お汁子を還城　朱紙たりを弘
大豆爰ゐくさゐあやをそ搗送ほよ

[illegible]ぬく小槌の那
漸覚春相沼[illegible]切句
削[illegible]　亭芽ぬりし皐月[illegible]
景清ゝ世界の[illegible]ぬや　二葉
百人[illegible]　雪かき[illegible]　蓬ゝり
[illegible]　新[illegible]白[illegible]なつ[illegible]
七種や[illegible]　聟の[illegible]
[illegible]　朝[illegible]
さ[illegible]　七種打　[illegible]
妙[illegible]　水[illegible]　初の葉

二人静かかきもの乃月
なつ[illegible]　扇ふ[illegible]　川[illegible]
うの道　花　裏[illegible]ふ里の　[illegible]葉
畠[illegible]　[illegible]の[illegible]葉
傘持[illegible]　[illegible]　若葉
長嘯の記を[illegible]
[illegible]　[illegible]葉
葉[illegible]　白魚　吉野川
河州八尾姫[illegible]
[illegible]　芹[illegible]

溪邊雙白鷺

はふ雪　芹　流る　あの雪う那

萬葉集にも朱雀の柳と作り

ふるゝ　なよ　ぬ

たゝ　こ八西の　禿　ゆ　なゝ　ふ　ゝ

正月廿日冠里ゝ糸作

菓剤ゝの上手を振る　厳　の雪

狩三十二間堂

いろ　ゝ　や　き　ゝ　ゆ　ゝ　ゆ　ゝ　ゆ　ゝ　ゆ　ゝ　ゆ　ゝ　ゆ　ゝ

雪　の　四　刈　八　来　ゝ　り　美　子　の　間

上　12

雪　ゆ　ゝ　か　ゝ　く　能　な　の　ゝ　ま　と　は　ゝ　ま

ち　ゝ　ゝ　川　雪　ゆ　ゝ　く　ゝ　ゆ　や　鮫　の　髓

四十の賀　ゝ　ゆ　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま

性　秘　義　ま　墨　と　と　ゝ　を　て　梅　ゝ　ん　ゝ　ゝ

な　ゝ　は　ゝ　ゆ　ゝ　ま　ゝ　け　め　や　雪　ゝ　の　ま

う　ゝ　ん　ゝ　雪　や　ゝ　ゝ　食　の　家　も　の　ゝ　ゝ　ゝ

小　遊　ゝ　う　や　ゝ　ま　ゝ　梅　の　ゝ　ゝ　枝　ま　賜　の　ま　ま　ま

ゝ　ま　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

梅　の　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ

ま　ゝ　枝　の　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ　ま　ゝ

等翁あるさん
やとて紅梅をうゑあるしに梅の純
白八のうゑをく遅ふやこのみうゑ
進上年間ぜんのねくやうめ花を
ちらさうと風ちんやもゑ来て数の梅
梅を書れ人よ
古ちうへうめちとり入よ かりとち箱
不曲尊
あせ紙こゑ月ゆくも梅の白心八
晩押のうゑるくよ素花をれ

二月の余所のやうしやく孔梅
乙孫十四年二月廿五日 聖廟八百齢御年
忌於亀戸侍社詩歌連俳令奥行一座
梅松やあるもる数も八百所
第末のゆくゆ長と是よ万代うゑ
和心は推敲之句
たくはるくきの月ゑくう素の門
白玉改名
ふ墨の間ぜん陸つよやくゑと星
梅津硯水之子

[illegible]を[illegible]れと[illegible]ほ[illegible]ぬ　大宰府

宰府奉納

守書の[illegible]

元日[illegible]

[illegible]

[illegible]

小袖[illegible]　俳[illegible]

仙[illegible]

玉[illegible]

[illegible]様[illegible]

久松肅山亭[illegible]

梅津氏の祖父大坂表乃軍功[illegible]

市感状　清太刀を以裁[illegible]正月十七

日の[illegible]上杉蜂須賀[illegible]の家臣十七人

[illegible]風[illegible]正月十七日[illegible]

[illegible]の興[illegible]家督[illegible]

[illegible]賀[illegible]

幡持[illegible]文臺　昭[illegible]

[illegible]

芭蕉翁百ケ日懐舊

墨のうゑ色もさびしき昔うなゐ

氷肌玉骨しらぬめ

甘しとみし紫うも春にも梅花皮

うゑしの分を逆ひてうゑ郎

覚こゝろくゝのうゑもあ　杉綾

芭蕉葉を上にとゝく

字うゑ花雪如十日ゑそ杉なりうゑ

ゆゝしうゑうゑ

賞花子八子杉りけ年三ゝ雪つ

字うゑ花雪年一孤出よひ雪ゝのへ花

うゑうゑ花ゝ花　時ん雪しうゑ

覚有　世采ゝ　ん氣の如

市隅

年ゝうゑく賞馬素ゝ竹席蔵

うゑうゑ雪如嵐ちりゆく園花ゝ

茶白ゝゝ　ゝゝ画ゝ

覚ゝゝこゝゝぬゝ　朝日山

菜枝ゝゝ　ゝゝ画年

うゑうゑの曲ゝ　ゝ枝を削ん

[illegible]ふきおとを笠舳
[illegible]
[illegible]

柳上鷺の影を
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

傾城の讃

青柳乃[illegible]柳や　三り[illegible]月

青柳乃蝙蝠つゝみ也
柳ゆゑ鼓もうつれ[illegible]
探子や　柳ゆゑ曲[illegible]
山更上京
貫[illegible]
傾城の賢[illegible]
[illegible]
[illegible]
芭蕉の自画十三懐周之讃
[illegible]の[illegible]　十年[illegible]

柳巷

正月巳巳布施弁財天へ詣侍る奉納
玉椿 旦とつれしくや宇抱こあり
ゐ魚ゐ漁夫ゝ園所ハあひゐのこ
志ら魚の罾所ゆゝめゐ西ゝ荏ゝゐ
白魚露命
月と法起生(イッ)雪(マデ)魚ゐ朧 闇
志らう銭の色一ゐちゐれのの川ゟし紅
白魚や海苔ハ下直なれば買得人を
好ぬや何所ぞもまろぬ海苔の味
残りもなく水の色ゝすゞしやこゝろ

一升ハのしき海ゟり覗ゐれ
石勾ゝ川清き流ゐむしきさ覗
鴉苔や小礒ゐ海も咲たてす
四睡圖
かもろふ子麻てき鉢く如虎の耳
梟所あゐ如目鏡やおそろ月
點印半面美人の字を彫て琴形の
中尓備ゟ銭はし終て冠里公乃
万句銀流巻子押弘め侍らんとて
事此月 琴尓ゐくそし覚哉

おもしろう〳〵と松せんまつさを月おうの水

二月十七日原驛

富士の麓　都乃太夫　えとく餐ん

佔徒岩堵よ逗留しく餞ゆ

白なつきを根らく咲ゆしよ

松嶋や志ゆかとも必ばんく

不二の絵よのてまれ行

三帆舟八塩屋なるかもを矢弓

みの浦ゆ行ゆ

孫〳〵その蚕やしちよ日向の雨

ちるさめや柴の香ゆ酸ゆ尾張

春雨やひしひしと枯つし

綱ゆ志く徳ゆ馬の鼻の那

この雨を〳〵おるん日次ゆ

本多紙物ゆ

まつの末ゆ子徒の旅せん　夢ちゆう

遠遊酔帰の磨ゆ

ちゆ家ゆよ乃女〳〵ちゆ家むちめ式

三河小酒井村観音寺納

めゝと猫や新もの〳〵　春日新

伶人共門ありしかや 長のこと

悼後立志 祖母と女べ

昔 このなさけ 音三井寺 夢の里

引このへく 墓とこそ 春 [illegible]

画讃

浦島 たらの実 [illegible]

たちよりし 大神 [illegible]

義経や 手 [illegible] 種下し

[illegible] 小橋の [illegible]

苗代や 堂 [illegible] 駅つさひ

格技絵合 [illegible] 稲荷山

[illegible] 斯 [illegible] 暇を玉ハル

禁固ヲ破りて

破や [illegible] 銀銭 [illegible]

やみ入や [illegible]

義い [illegible] 一ッ [illegible] 是ハ星

やみ [illegible] 義

屋入や 牛合点 [illegible] 大家戸て

故赤穂主浅野内府監長矩之舊臣

大石内蔵之助等四十六人同志異体報

元君之讎今茲二月四日官裁下令
一時伏刃齋屍万世のさんけう黄舌
[illegible]肺肝をつゝぬく
[illegible]酢ハなるゝ汝

画讃

拾得の風巾よりゝ[illegible]や玉幕
[illegible]ハ戸をとれきぬ風巾
支考う遠遊の[illegible]
[illegible]
白河の関を見んとて[illegible]

惜春

梅もちるやまぶきを葉ふきん風巾
[illegible]代[illegible]
歎嘆の[illegible]鄙の居[illegible]
一杉[illegible]を送る人[illegible]
[illegible]
杉起く　畠[illegible]
[illegible]出[illegible]
梅の[illegible]畠中の
[illegible]蛙乃[illegible]
[illegible]折[illegible]

子芝をつゝむもあるを雪ふる
ときゝて不二をとゝゝよ雪肥ゝ
足あしゝ浅つまゝゝ猫や 雪の中
猫ちゝのゝんゝ川ゝゝ迷ゝ 松徳ゝ
近藤氏 京町ゝん猫かゝゝゝ 扇屋町
寄乖、押ゝゝまゝゝ あのゝ涙やまゝゝ 乖
幼、 ゝゝきゝの百目ゝゝ子ゝ 別のゝ
寄寺 柏木の梯もゝ独ゝ あゝゝ猫
思他、 級ゝんゝ君ゝ 許 訟 祢
疑、 ゝのゝこゝゝ似ゝゝ 辰之助

人ゝ胡椒の移をゝゝゝのゝゝゝて
耳姉つゝゝゝきゝゝもあへゝ吟ゝ式
自得
馳を噛ゝゝ子猫 紙ゝて 訴式
或おゝゝぬゝ 比丘ゝゝ 腰のぬゝゝ
おゝゝゝ住持ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝしゝ 五の徳を感ゝ
能睡 あゝゝゝ所 嗅出をねゝゝの
能忘 ゝゝゝ七 ゝゝゝの
能捕 鶏ゝ 亂ゝゝ問ゝ

能狂　能恥

吉原の新年

[illegible]

金杜や冬青よりても稲荷山

愛宕の[illegible]　水間寺

法忌

人の世や[illegible]の寺もやし

[illegible]　武士ハ[illegible]　彼岸哉

授記品無有魔事

[illegible]　彼岸乃夕日新

不生不滅の[illegible]

海棠の新を悟る　ねもん　係

仏若し大喝日よ入滅しあらいよ仏

[illegible]

たゞみを注生もの[illegible]

佛ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]死苔よ月和の邪

二月十九日上京發足

西行や死出路を拵のそゝ[illegible]弘

寒食や竈下猫乃目を怪しむ

今宵[illegible]に寒食の家よ自死番

併配り國掛人こまめ奏してゝ

野老賣ゝ[illegible]大原の里ひゝ[illegible]

[illegible]苔の色しゝ[illegible]ゝ[illegible]

弱ゝ[illegible]ゝ[illegible]れ僧侶落のたゝ

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

乗[illegible]や柿を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]路の棠

菜苑

黒[illegible]麻ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ぬゝ去菜

すこゝし搗や[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

野[illegible]嵐の去[illegible]ゝ[illegible]土葉

[illegible]の脇し[illegible]ゝ去[illegible]ひ

山里や[illegible]ゝ[illegible]ゝ作猫活

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

傘や蕨や[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

見獅子伶有感

ちゝ志ちゝ獅子無獸共思ひし
百とせ八ねるゝ花孤志てふれ

無車馬喧

夕日新町中ちゝ於蟬の声
蟬しゝゝ性をくゝひとり家庵安
蓬扉糸巷城の人きく志てふ

釈菜

聖堂ゝこゝぬゝく蟬もたのゝし
花ゝゝやあちゝ遠ゝの垂孔新

山孔ちゝ乙多るをこの人す 入日加安

画賛

燕や糸紙ゝ巣城曳いゝ孔ゝり
加ゝゝあきゝ謝ゝゝゝよ如毛 燕
川燕 編さん 彩ゝ広ゝ曲新孔
柳燕の図
乙多るの 蕎を ゝこゝす 柳ゝ那
孔ゝ孔ゝ 虹城 ゝ燕ゝゝ
蕎の水ゝ蕎ゝゝ燕ゝゝ
孔ゝゝゝ乙ゝゝ里ゝゝ免
孔ゝゝゝ乙ゝゝ島不新

帰る雁米つきも古しやおりふ
小田のへす鍬もたしらぬ張る庵
市川も朱追善一子九蔵名残
つきし傳るる
塗者形見ハ白のしや雉子の声
世の中ゝ何ゝ法の慕しき語しめて急
ゝ川らし抱哉のく雉子の題この面
角田川本く
なれも其子と尋ねゝ雉子の声
人らゆらし雉哉しこの母て丸丈の心急

帆はしらの世ゝぐりおろす西を裁
腿やひまめ匣阿達しろ夕にら越
渉る事川泛舟
川上兵ゝ素らう晩らめしもとり
從年吟ふら幽め古る長し呼子鳥
もさらふ桃や夢舞妓の腰踊て
醴す桃李の詩人蝶あらし
菓子盆有きし人形やりゝ託也
緑豆の頭もあらし春乃眉
燕り色れ気らまさゝや庭の花

ひまとりのやこと年桃花せん雞乃こゑ
鶯の獅子舞はゝゝゝゝ逆毛哉
順禮はいらんよりをのむやうあハを
勝見をひらくつ鶯のはれる郭
歳暮の赤しにあらぬ雪ひ哉
毛こうもゝよ股黒きゆを雪そう
老多死きふ里のやきぬ固本冊
刈てハくるゝ花冠も箕手多
王子曲水めぐ泊されく
乗春哉烏帽子ふきせん岩つし

曲水年ゆの筆遠き茶碗の
蛍ゆ如筧まゝ宿るそ
おはゝに木兎もゆり雛雪
のゝゝもの弥生川迄を拾の雛
めゝもやひ郭年冠ゝ小盞
みゝゝゝや盃ぬ松浦舟
上元ゝ雛ゝの秋なり
侍へ来ゝひなのたゝ北喜銭
三月四日雪ふりきふよ
雛やそ死佐野のゝゝ乃ゝの袖

紙雛のさうくしさく ちまきこの
殺とうくねひ[illegible]はうろう 雛菓子
菓子[illegible]ま 宮 脳 [illegible]
いかうしのの[illegible]
[illegible]きよ 赤[illegible]
雛[illegible]も 碁盤 [illegible]
折菓子 井筒 [illegible]
[illegible]云 ひなも[illegible]め 雨[illegible]の 毎
[illegible]れ[illegible]れ 坂 一 目 那
ひなられぬ 人をそ[illegible]きの 拵 弐

永代島八幡宮奉納
汐干也たつみくまの道 江戸貝
親孫むつ比目を 鶴ん汐 干うれ
紀国の 朝鮑つれく 志ほひの形
貝つるも 白洲 [illegible] 未 [illegible] 松
[illegible]なりやのつき上 [illegible] の栗
わきうと 雀 [illegible] 貝
貝みく貝をむき [illegible]
[illegible]貝むきの 汐 [illegible]
[illegible] 浪 [illegible]

蓮浮や塩干の潟に[illegible]
すたき貝雪の[illegible]人
子安貝　二見が浦を素通り
貝を拾へを送り出しよ
蛤　ぬいもの[illegible]
鉄槌　[illegible]
[illegible]　[illegible]　赤貝
東潮留を見る春
出代や人おくを送る連衆
偶偶師　[illegible]の時を小[illegible]

伊勢の[illegible]
[illegible]
露沾公[illegible]
森[illegible]
皆是[illegible]
一茅[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
京中へ[illegible]

仁和寺

いちのつの屋うり木のもし撫のれ
八ツ重ぬ山ぶきぶき一枝を

雨後

さくらもち泉生の日をわきまえ
ぶくさの稚子目の赤へをよ
妙鏡院より花送りしよ
文ハあとよ撫ぶ生と使の脚
上野清水堂のく
清うみく志のも生れさくぶ

折ふ殺生偸盗あり
ぶさ也と色糸五戒ぶ さくられ式
赤きハくしとちもあ花ぶくられ
上野みく
浮助や鹿従又よりく撫寺
芳野山ふしてぶくられぬ山ふし
吟星やさくぶ
口ひろ鉢魚ぶり汲ぶ
天悲心院の花を又作りく
灌頂ぶ 国ぶり生く撫弟姫

酒肴さゝれよ撥音をたゝなむ人々
下外平清味又んぜゝ赤ほさゝれ
墨染よ朝彼岸ゝいつかこちゝん
分別ひまる緑ゝ水ゝ糸ちゝ
浦人の花ゝ見りゝ
ちゝ時を年ゝ買ん様ゝゝ
花中尋友
鐘聞ゝ人を尋ゝ山ゝゝ
山ゝゝ鏡ゝ僧あゝん
やゝゝゝ猿ゝ樫ゝ那

石河氏宜雨亭山荘あゝ
二ゝゝゝゝ角ゝゝゝゝゝ
ひまゝ乃絵持ゝ山ゝゝ
目黒松隣豊ゝ
深世ゝ撥
小ゝゝ松ゝ山ゝ
去ゝの車ゝゝ山ゝゝ
辛未の年上聖ゝ夢御の
ゝを世上一時ゝ愁眉ひゝ
其所生ゝ二日ゝ山ゝゝ

含秀亭の芸植えそめて

植足よ三切の供物 みきえ九合

勢多春望

山ぢ〳〵の月を注ぐうつ乃 拾子式

茶のけむり 供物の煙を やまき 揺

萬日の人出ちりてぶ 遊さて

一食千金とこの乃や

供の酒乃 伊 五 あ を あ 拭て 朝

友猿の しゝを そ ひ と な 芸 う も

緑〳〵 八 ち る る 芸 な の 如 も 行 逸

沼地や 花 孔 こ の ひ ま く ふ 寄 れ た り

行露 ゑ あ〳〵 こ へ 沼 沼 書 の 沼

照 息 よ 伊 乃 も 芸 れ と 山 訪 ち 那

茶 ゑ の も う 沼 し し る ん 乳 ち れ

含秀亭孔山のとよ沼供して

沼 追 習 や 花 の 志 れ さ よ 加 さ を る と

も ひ こ ん た る や ゑ お 乳 の 多 出 し 孔

沼 う こ ん や 芸 の 孔 ア 子 を 松 こ う り

漬 荘 子

波 見 ハ 嵐 雪 の 偽 ゑ れ う 地

門柳巷を掃よせ折ふし雪の降
ぬ間をうふ丁児あんさまな巷の名
花見哉　毋屋つれづれ　七日　児
護国寺より帰る時雨にて迫へられて
山ゆきもとゆかなりゆく鳥も嵯峨
うゑ孔雀ゆうゆう孤ゆ人もあり
大佛勝うゆ雲らん　ちゑん堂
世の花や五年　五郎　女　ゆ
憶芭蕉翁
月哉や　俗の寺社孤のあく

傀儡　ゆ　鼓　うゆ　ゆ　ゆ　哉　見　哉
森よりくゆれて　捧　ゆ　ゆ　花の山
花よ遂つく　執　達　ゆ　ん　都　ゆ　れ
立　君　を　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　秋　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　刹　狂　人　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
花　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
人　ゆ　人　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
庚申の　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
代降　ゆ　人　ゆ　延　ゆ　ゆ　花見　ゆ　ゆ

[illegible]を[illegible]の心
[illegible]人や家の主
九条殿御下向
侍
[illegible]の[illegible]の門
[illegible]
山里人[illegible]花[illegible]
[illegible]人の[illegible]
屋形[illegible]
意馬心猿解
立馬の曰く猿[illegible]

永代寺池
[illegible]
[illegible]
侍座
[illegible]
神力品現大神力
法[illegible]
[illegible]
惜苔不掃地
[illegible]

日輪寺の僧と対興しく

[illegible]酒 [illegible]もつれん坂さのあ

花ハ都 [illegible]

かんさしや [illegible]

上野佛

[illegible]徒士 [illegible]

酒を要つまゝ [illegible]

妓子 [illegible]を [illegible]

[illegible]

[illegible]

代撫

彫笛縫簑 [illegible]晴 [illegible]

車 [illegible]

尋苍

植木屋 [illegible]亭主 [illegible]

[illegible]

湖春 [illegible]

[illegible]

甫盛 [illegible]上京

花 [illegible]濃 伊勢 [illegible]

[illegible]

[illegible]

名きこのりや 作（タテ） 意五郎 花定め

行露云年く苍をあるこそ逢うれハ

郎城ゆん使者の却乃糸月を哉

さ和下けくやうくひくり寺参り

芸よ 絶ぜこの文ゑ 喧嘩 買

客すきや名くゆを也よ 浮義至

摸島

花風や 天女 賀迄こ 歩こう

寧府糸詣の舟中

菜のされの小坊至下角なり 苑

海棠のあ名ん うゆ如おゆ乃月

山以ゑ 黄玉 青玉 ゑゆそう文

三月廿日

やゆ如きも柳乃糸弧そこ弧

月雪下 山吹 花の芳新よし

浅茅川道遥

鯉の美八山ふきの風や土こ地ゑ

小ゑ舌ゑ 菜乃和ゆつし山

こ弧ゆきゑ市新ゆん文よ山石ゆし

且夕のゆ〜ゆ文こ弧ゆし弧

赤是くり赤屋一見せん法しし成
きりちまを豆腐を切く捨くゐる
業舟の里ハ茶摘ハ水きつり
ふ茶を酢みそよつふ西下の那

画賛

茶ゑ茶ちまをまく那いく蛙ゐり
ふち咲く松魚くふ日をかくへ兎
水彩や鮠くくく水ゑの姫
錦みを茶ん風ハ憎かし
くくよみをくの五徳やふち兎家

秋船庭をを世くくよ
たくくのまや茶うゑ扇を
ゐちは三浦に侍従よりて京使よ
をちのふ祝しく
茶浪や廿七人字履をを
くくつしこかを川鳴江の星乃数
ちんく引蝦年をふ家をゐ
市間喧
つを末屋のを家ゐ是形ゐ雨蛙
景汐ゐ片目祝ちゐふ田螺この那

ゆゑ人形子の名をきゝて
こゝりやまらひ子なの〳〵蜂と助
乗不覚の巣かきゝ孫は
なら〳〵けのさら〳〵三八宿とこそ
何必逃杯走似雲
代帀戔たくこゝく逝とき者桑式
龍樹菩薩の禅陀伽王は射しく貪
欲を去めしめ者〳〵へと有瘡
人迅猛煙始雖悦後増苦の文のこゝを
冥途のいとれ時えし御法こゝ乳

摩訶止観は一日之羅不能得鳥得鳥
之羅唯是一日代之所我
南村千調仙養へ如無教
切要如猛口を雄鳥ゆつを純貝
三月尽
春ゝ乳祭ゝく奉我送乳牙公重や

夏之部

凡光陰我若吟身

大酒のあきいてそもたるき袷の面

一つとうよ袷よなるや　黒木うを

越後屋糸絹さく寄や　更衣

卯月八日毎年おこなひて

牙ふとりく　衣のへうき　卯月

ぬのくやちよ　ちよ　釈尊こ浴もの

法雨も志ろの下茶や　更衣

寄甘已

白柔もなるうるさうるさ　尤の

奉幣使内代参の人数多く

ふらしたるて伊勢参あて詣う　更衣

乞食式天地をそうそうを夏うるも

ものうるあや形式寄めも　熟玉

有的式面起　あくなん

浴ふまや大もものうる子　規

後這量　時ほうほうほ

歴くや下馬のをりふ　時うる

川むこう誰屋敷へうかゝ[illegible]
鶴 峠 ゆこの[illegible]
あうつきの水面をはなれる郭公
百間長屋あゝ
時うる人死つゝ元よ下る打
ゆゝ[illegible]ます一二の橋ゆ[illegible]
院咸う三味線[illegible]
亦打山
ゆゝてきけ 探多う太鼓 鶴
き無くしの用意う月年 杜宇

寮坊主のゝ物[illegible]し 郭公
宰府奉納
ゆゝ[illegible]ゆうる花くと越ふう
林中不賣薪
せよなくや山[illegible]町[illegible]
梵寺 五加う[illegible]
さる[illegible]村あく
ゝ[illegible]山 村湯の日落や 子規
曲終人不見
[illegible]川なの反吐とゆりう杜宇

たゝかひ終夢ぬとみる暁
夏よ来る毎に此の屋をもり影と
ゆゝしき家や 蔦子 紀もれ
子もふすま 枕もゆまん 蜀竜
扣風の妻を供しく焚滅へ仏しく
るの間 妹ゝ心うへせほゝ記す
桑点子
蛤や この秋子 親
ゝ見ゝ 鳥や 鳴る
悲滴 現 夢 ほゝきん

人間の四月示ゆきれ ゆくゝなす
ある人死 子 懺 ゆゝ
月 腰 風呂や 子 紀
六 示 ゆゝ
俳句 出 つの 沼 杏 示 毒 熟 乙
桑 子 紀 毒 有 毒 鳴 ね 落
ゆゝ 人 花 夢 毒 紀

目の上不用目をかくしや　新　公

夢登

砂ゝ日ゝ　森羅万象　時　魂

姉ゝ時の野まゝ　ゝ　ゝ

めされく　徑をかりゝ

記　くきけ　ゝの時る　市来記

ゝ　ゝ　ゝ　二　ゝ　ゝ　出馬

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

山田市之丞

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　杜　宇

欲　ゝ　ゝ　耳　ゝ　ゝ　ゝ

我　自　人　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

泥　ゝ　ゝ　ゝ　破　時　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

彰　ゝ　中　入　ゝ　死　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　木　兎　ゝ　ゝ　時　鳥

次　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

屏風は薔薇の房に住すれかの和
遠ひろ北三位ふくりより 郭公
茅舎や大年神を頂者鳥

上行寺 二句

灌仏や 拾子 幼 きの 兒
浴仏や 墓は知るへ 知る云
佛さんこのきりはくさ 記有
きくてやうかうを生れ出あうへ
麦飯や 母年たうをく 仏生会云
和の茶やいつまの御所乃加茂詣

うの花や 蛛 山吹乃くま
蟾とふんく 和の色を 將くく
年寄しる 義あの色 北 弟子
舟遊乃 均 を吹や 夕 茶紫

慈母墓

茶水年 しくく 茂 那
僧正 ひとへや ちの 楓
ゆかしなのなく乃 この 牡丹 持

河州觀心寺

楠の 遥 ぬ 寄しく 法さん 弘

うかまと女や異見ゝ洞むゝ牡丹
筑前江を
志ゝぬ火ゝ続てうつる牡丹哉
丹羽尤京かゝのゝ糸新五
黒牡丹称ゝや ねり物の大島手
艶士ゝめて
八専哉うつゝ有笑ふ牡丹一の重
ゝさめや 驕山を名ゝ(源氏)
背柏の行状をあつ元集編ゝ人作
ちゝ角ゝ火ゝ元す 深見仲

殿つゝり並ゝ桐死ゝ郎
江毛未貢乃出ゝ奇形りゝゝく
桐の京新後の影絵ものゝ
ゝ日ゝかゝ弘浄瑠璃屋や 青公廉
下洛卯月の中乃一日
温岐屋の加毛りゝ元ゝ元を 鏡山
帆をおゝ元糸毛ゝ松毛ゝ城かゝ毛
艇 菊ゝ 沈ゝ 已日の毛ゝ乃
夕志ゝや ゆゝの ゝ糸ゝ中ゝゝ
二ゝゝゝき北名ゝ 昔ゝくゝゝて孔

和重箱より　松魚なるべし　酒迎

伊勢あるくも　たのしき夢のさめるかな

うゝゝ霞の美まるうる　輕うる

妻鹽の　卵ぢん　死ぬるの哉

人のまゝ　河鹿しかつを　武

魚市涼霄

拍子　紀の夜　魚　活　松魚

光廣卿の妻　あり　合作

松魚　なる　光　松魚を　袖く　拭

木賀

名所を　海　我　ふ　松魚　那

袖裏や　茄　ける　白　李

浅野氏義士　名　む

沢潟　海　り　弟　つ

杜　弟　水　き

あ　つ　女　雪　加　し

む　の　珠　あ　け　杜　魚

麓　け　る　拉　る　つ

護国寺　海

水漬よりとりあつめ　杜若

奉納

のゝ衣　内氣や　かきつばたおきかへて
あり　花菖　和精進の　調度　なり
蓋　さゝ　風もたのしきの　菖
蒲　ゆかしき　所も　なき　頂　孫いと

祝産育

たゝなの皮　胴の弦　つゝみ
筆　よ　糸　より　おくよ　大あ
筆　や　丈山　あしとせん　絵の　箱

大町亭法會

法のゝめ　筍羹　四　かゝ　弐

寄幻住老

老僧　せん　筍　を　ゆむ　なみ　弐
ゆの　糸　や　鞭　糸　ひかるる　箱根山
たちのぼる　法隆の　梅　ゆ　ゆ
ゆ　いと　閑伽の　杉　ゆ　ゆ　あれ
傾城　せん　反　出　屋　ゆ　ゆ　の　山
帯　合　ゆ　ゆ　ゆ　浮世　夏　ゆ　仏
みゝ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　の　納　の　吉

岩翁亭歌選解

[illegible] 蓮へ [illegible] 蓮の日
[illegible] 馬 [illegible] 烏 麦
馬士起 [illegible] 麦郎式
麦 [illegible] 月 [illegible] 人 [illegible] 秋
能化堂 麦つく 僧 [illegible] 式
[illegible] 麦 蓮 [illegible] 年を 笑 [illegible]

田家

[illegible] 乙女 [illegible] 婚 [illegible]
汁 [illegible] 麦 [illegible] や 早苗 [illegible]

本賀入湯のこ [illegible]
[illegible] 門
田植 [illegible] 角田川
[illegible] 田植 [illegible]
早乙女 [illegible] 新 [illegible]
[illegible] 苗穂 [illegible] 秋 [illegible]

恫農

繞 漁の 脊丹 [illegible] 田子 [illegible]
懺 網 沖 [illegible] 帆 [illegible] 私
[illegible] 甲や 庫 [illegible]

なよ手形未練のこして銭のあて
幟ら川長者の番や　墨牡丹
疱瘡の助けこそはやり手形かりて
茶碗やかん　幟もこそれ　嵐の形
公門に入時
銭
あやめさく此障子の影より式
湯を汲み持まはる茶碗やめされ
子ふもちふあやめも菖かしぬ子
と伊勢大輔家の志ふにかへて待く
菖てん蛙共つまみあやめ兎の形

本つしやふ屋を志めて菖蒲形
きる手元みなひよこいりをあやめ
根合やはんかたよびさん　花
廻文　筐
けきたんしのかやめや菖の富田酒
此なや手をかくさん白髭太郎との
なりかりとかくもんハそれ人形の風俗
ついにさらに小さ楽しみ人形ハあかし
我武者し　場立太夫や　茶碗やぶれ
蝙蝠共　屎もの子になれあやめ　学

屋根ふきし家なんく昔る 昔る 船
粽ゝりん 彈ま ゆめ ゆめ 行のあり
ちまきのふたゝび世界の 繁分解や
おもまる女乃 塔沢ま入て 交うしきたに
山魚の粽や ゝを 先ゝく 涼なくゝゝ
くゝの戸やゝ月 月てゝ子乃 この 粽
午の季午の月 月の日午の 鳴らけま入
競馬 時子 入 為 ゝいゝゝ 角
いのゝ月 ひまち ゝ角 ゝ 船 ゝ 八
ゝゝゝ秋の名 もこゝろを よ節句前

五月雨ふやゝのゝく吉野を出ぬゝし
三絃や 簾 衣 ゝ ゝ む ゝ ゝ 面
隅ゝ 茅 ゝ 鶯 ゝ ゝ ゝ 人 五月 雨
ゝゝ秋や 見 ゝ 銭 通 人
燕 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
新ぬゝ ゝ 田子 死 ゝ ゝ 月 面
星霜江 銭
茅末や 人馬 ゝ ゝ 五月 雨
江戸八 親
住 ゝ ゝ 八 川 乃 雨 五月

[illegible]や酒の樋[illegible]山[illegible]
五月雨[illegible]のこと[illegible]第[illegible]礼[illegible]
[illegible]面や[illegible]かさにつる 小人形
さつきれや 酒匂[illegible]くこそ[illegible] 和歌子
厳宕院屋の大法[illegible]
[illegible]月[illegible]もやとむ[illegible]法の[illegible]
七十餘の老[illegible]酒[illegible]まうして[illegible]
こそ[illegible]く泣まく[illegible]に追善の句を[illegible]
[illegible]の老醫のいとをうけ[illegible]
[illegible]表[illegible]

[illegible]年にて[illegible]
さかくゆ[illegible]
[illegible]や 五月雨
江の時
徽雨の窟 [illegible]一曲 [illegible]たまへ
[illegible]五月闇
[illegible]五[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

腰越

篠すゝきの葉に露のあるかなし

頃廉

八重葎やしきのさるまに虎ゝ雨

ゆゝの山ゝしろよ何を閑古鳥

風ふかぬ表せんまちかくやかまこゑ

僧正ゝ谷

俺しらゝ月見ぬく侍よゝんこゑ

自悦

秋あるまなを毎森さゝゝる水鶏哉

ゝゝ鶏峠 新垂ゝ不逝ゝのつゝゝめ哉

和古詩

琴弦機ゝく水雑を煮夜酒洪し

吐ぬ鶏のほまを嘗ゝよりめれ 箱一の那

移年つれて一里八丁ゝり 思の松

石婚ゝ竜ゝやよ法面くゝゝゝよ哉

杜國哉ゝゝむ

羽ぬ高ゝる峠ゝ寄ゝゝゝていこ峠

あゝ人ゝ死ゝ思の墨ゝく

内川や峠のゝゝさ巣よ新く蛙

新日本七里ヶ浜に出でうり名古屋軟
石の枕よ軟石ありうるとしての茶屋
永代島の茶屋はやはりもして
ゆうゆうり神奈川へ行くも遠く軟の蓋
湖舟銭年酒たうへて
貫之の新のすしくふわうれ式
飯能乃鱧なるものしなみやこ式
出根こま鞋年鐵あり走鰈
ちちちちちちたた
学北井戸ちちちちのしこう小篠賣

交ふ海と四ッ手ちの光の那
目通りの岡出ん 接や 筑ちちの乳
反川年義ちう仕出て 黄子式
枇杷の義や ちれて角のき 牝牛
爭こぬ 鬼の耳や 弟ちうみて
ちほり 酒乃さの れよ 這ちう
鎌倉や野の出ん角 蝸牛
文七年 如まる 子屋のちうり
弟北ちや 赤小生ち 牝牛
茅の ちよ 家ち 蓼ちふ 蛍の乳

宇治あそ　二句

紫式部てらされ給ふの秋
川くらや水よ　二句　紅ほくる　恋
雷まくらにこたへの雨くる迄
妻ゐ家ゐ　小雨　告やしん
こまくら
世碑　江戸　衰まぬ　蛍のみ
松はしらよ　浮橋　のこるかち
愛娼子
鈴鳴く　玉ふきぬ　水ちり　亀

鳥山へ行も如く人よ
青柳や　ちるもの　あるも　蚊　夢よ
市　仮屋のいをを　乱よ
皆つくり　菜　川　の　水やり　式
秋　蛍　孤　張　年　風　入る　雪
夜讀書
蚊　うつや　秋　本　重（カサ）
松賀　秋帆　岩　へ　題
のやり　火よ　狭　箱　宗　扇　れ
蚊　火　年　夕　負　し　撞

酔て忘

宵の妨も枕をとられ八夢うれ

生死去来

烏帽子ぬいでいつくとり義の高

捕虎　東坡

七ッ尾の妨をうしなふ足疾鬼

あやうし火や妨怪つうさよ老ひとり

蚊ぶくやや麝奴ら閨せん　私注

佛骨表

まつ〳〵ら〳〵蠅をとおきり韓退之

射ル者中リ奕スル者勝ツ

蠅打よりいつまでもあるを難とて絵

伝法院まつ〳〵人死鄙よ

梁の蠅ぶおつ〳〵ぶ一ぶるのうへ

蠅なくい一茶をしん　曽我菊

去さへ法をくてるにあも

蠅追ふ年妹ぶれめや　瓜作り

西崔う矢數俳諧は後見たのこれ

漢ぶよ〳〵二万句　蠅あるまけり

不二の句　蠅い酒屋よのこり亀

逐歐陽公賦

蠅の子孫兄よ蠅なるを悔なし
いきけるうちはさるさわぐ
きゝ絶るは蓮は海しろ釜の沼
蛙なくなりのりもの雲い留人の留り
縁槐高處
ゆ蛙や　笛平　帝城十文字
一晶の宿坊ふく
日蓮よ　木すゑ　蟬の時を絶
空蟬よ　吉原　訴訟の乳

上　四十六

未の蟲とあつ蟬も
蟬をきけ　一は時ふく　東長　寺の
入湯の人　木笑　城のうしろ
蛙の　ゆ　まし　ゆ　蛙も　ゆ　支　蛙　れ
きゝ　ゆ　未の　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　蛙も　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
涙子を懐紙の表帝ゆて点
ゆこせられて
飯桃　ゆ　加　ゆ　ゆ　蟬の光
視波蟬　ゆ者　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

[illegible]の〳〵世木あく[illegible]
乖の悔さ〳〵[illegible]
蝙蝠よ[illegible]
[illegible]
うゐとしの弦よ
反[illegible]
宮長の句を[illegible]
たち[illegible]
[illegible]
交代の[illegible]の[illegible]

柏

反木立式　池上の破風　五寸

建長寺無詩俗[illegible]人

愛宗詩[illegible]

[illegible]

[illegible]

武人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日待髪そゝけてくらきな迄ちらりとる泪かな
ひとり焼火をつゝむころ雑煮さしさし
川の下手おりおりひとり聲夜の月
雪吹入る月やしきりし不二の山

浅草川逍遥

富士ゟや細代に火ともす舟の小屋
あつさを涼しく思ふ流やふし　鵠
手紙とく又くもり不二日記
永堂也里慧の紫志るし日加筆
高草や橋甚豊見えて　浜逢里

引舟の讃

夜草年臑くかゝるをまとへかり
楓子居
あすつぼや幾きかく通ふて御用夢
麻村や家銭へ舟流くる水くらき〆
三巻にいへるかさねの色の佩れは舎仙
と見生しく点ねのうそれとし識
やくしきりぬそれ色のあくに
所あんられ非人をふとし　麻蓬
落の甚き前とおりふる絶し　深草る

百合の花をくらべぬさねようつきぬ
蟷螂の小野しるいとく車百合
高野買や朔日しら菅を夕日哉

望相見

をくられいそぎの月くはうの日ら思ふ
ひらくはや猫の糸目よ寄る松の
花菖蒲を二ん菖蒲年月 價う那

祐天和尚よやす
夕鳥年ぬくとかきを賣名呉
ゆふべの酒や石き雑 坂根らり

画よ影子
夕ゆふべや一臼のこゑ 芭蕉 宿

酒満
菖蒲葉の酒典 寄るも 二面
藻の色や 金魚年の乱いよ簾

遊女小紫をこの碧て讃をまれしよ
もれくる月や張よかうけくさこうあ
藻の花や 海老越を軸よされ石

茂叔賛
傘年蝶 蓮 陸う那

詞書畧

香一炉 茎を 絵を 色しけり

得二正觀世音像一

手に 蓮 勝 土 ぬ 白ひう 那

妙法蓮華經

たゝ なりや 法 の さ も す の 華 紅

恵 法 い 法 花 の 華 受 し い へ

と 庐山の 斧 を ゆ さ り と い ぬ

玉 し 爰 て 筆 白 蓮 社

法 い 新 蓮 の な

九十

霊夢 感 て 東湖 弁 天 詣 る

出 ぬ 茶 屋 よ 歎 う 重 て も 武 式

荷 切 下 み し 切 く 茎 を 角

森 く と 茎 石 ち 能 者

海 重 花 香 ち 松 乃 あ し や 和 乱 山

竜 兼 栽

海 松 和 布 を 蜜 の 腰 蓑 青 角 豆

み ち 乱 寄 や 汐 こ む 風 ん 残 別 松

温 金 の 涙 出 を

波 重 ふ き や 貝 ち る 出 み を 海 主 よ か ら

瓜の一花

この世に詠あまりて　瓜持来
あかし強塩茶乃ともり　瓜の様
ほさびし　錆になりけり六皮半
女郎花又　法出して柔かり
手飯にうりを　瓜の志やくく
瓜の皮ありてもて洗の流まゝり
深右衛門瓜買ふゆく　袖も破れ

兎毛子銭
うりの皮は笠あて室とかくまき梨

花の中の法師　もちかくへ下ろして
其祖多まそめされ異俗しく作集
のかやらりんよき紀みも其れしよ
旅先も食養生やうりなさけ
瓜なるや　桂乃生酒のしてくなり
千瓜やおしろいぞくも里ほど白
歩し瓜やうつ重さて千代延小船

豊年
好みに味噌有売し残さん瓜茄子
川礼　あれを深きのとゝにそこ綴てん

皿鉢料理　多い淋あるや　仏た
まるとるかな林檎ハ油ておりし石
百にのあくらい出てしやけるし鯉
百姓八高砂あるあるあるや一束酒

酔登二階

酒の瀑布　冷麦の九天ゝり義ゝるん
ゆやけ色ゆゝ乳下ゝ石たを

會盟

交りのさ先て糸ゝし義料理
まるかゝるく蓼摺小木茶ゝり那

止波浦あゝく
北引ゝ蜜の土まゝし　義乳汐
時ゝ焼魚ゆゝ魚設ゝゝ雲れ
太刀のゝゝゝ月
帯木ゝ茄子ゝゝ子魚の那
茎生ゝ茶ハゝぬゝ毛ゝゝ
樟脳代ゝ代ゝゝ
ゝゝ時ゝ乳ゝゝ出用二千
捨人や木ゝ糸ゝ糸ゝゝ太刀二千
ゝゝ蘇や扇屋ゝゝゝ出用石し

市原にて

出でて郡し桁本に泊小町一丁きてうち
新長谷寺にくはうんゑみてうち去用二
清のゝ長郡にしきき書の山風加ちよ
宗祇のゝかゝ情多うち笑ゑまりうち
送りものやゝ清ゝ二の夜ゑれゑゝ
生死松いのゝ生ゝうんまん汗ゑゝ
死の海を汗ゑんゝ森の美中人
歌仙貫之の古昼よ
冠ゑゝ指浅ゝふゝうち寄の汗

汗濃ゝうゝ衣死背縫の神のゝ形り
笑ゑゝ長ゝくゝゝ二ゝ死ゑ武
公百や内餞たまゝ拙清ゝ
市中白雨ゝゑよ
鳶ゝ考ゑ夕ゝゑゝ腥し
夕たちゝゝうち我ゑゑ逃ゝ嵐のゝ
白雨ゝ氣ゝうゝ女ゑよ
雨ゑゝのゝかゝうゝ
夕ゝや田ゑんゝ神ゑゝ
ゆゝゝうゝ寄ゑゝく音二の船

丹中嶮

さゝなみの琵琶湖出て里遠き
夕たちの法華三井の寺こもれる堂
ゆかしさも洗ひ分るる去れる色
白雨ふり独活の葉ふるる白う那
夕ちかの岩の間に坂どの滝八滝
淵茅ヶ原よりなびく嶮しき
云ふ糸(イトコ)ちひさき茅元原
ゆかしきや楽屋ぶる傀儡師
夕たちの家をめぐる峰家鴨

八雲ヶ川まの嶮嶽 雲ヶ絶 雲
掛換ふ二ヶ絶 雲みすや雲の峰

高閣挽涼

香薷散 大ヶ新 雲ヶ雲の峯
西行し武蔵坊 清水
めんくの砂ヶ清水の名絶
ひる大なる蛭をみ川
剣ヶ盛ヶ白波の
まゝ川ヶ什李ヶ白ヶ面ヶ加ヶ
芋茎李ヶ命ヶ清水の散

元角田川牛田とかいふ所なく
いとゝ所のゝ清れたるなりけりとて茶橋
井よりかゝるふる女ひもうけぬ法やるゝ
氣あるまゝよ清水ゝ長なるゝ蛍の長
露沾公能奥行
日よりやけく酒のゝあるゝ清水泉
世平あるゝ元てゝ知るるのき侍
ひとりすむ友よ腦ゝ猫雪清水
清り濁りの判詰ゝいとれて
此論を一巻あるゝ水ゝ

嵯峨の市寺の世帳より
滅ゝ四月八日振舞水ゝ下向
祇園殿のかり屋ふを
杉乃葉も青水ゝ月ゝ焼れ
里ゝ子ゝ嵯ゝよいさゝ鼓ゝ
氣のゝ清水ゝの祭ゝ

七日

絲ゝのゝ人のきゝひも結ゝ
山王氏ゝ天下ゝ玉ゝ海

番付を書きまつり所きわひ武
松茶屋田舎ふ所うや屋休こと
所むかく狂言くふきる所つき武
茸の葉の赤鱣ども加うく暑二の乳
かくくうあく
山銭う凱せん痛の所門き所
懸うけの掘二丁あつし量八小
小女乃茶ちくうあつき武
冠里ム備中松山初入の時
川と暑や浦の茶屋所軸うう

信九所う持し扇子
般法茶の東屋へ入しあつき武
ちくうあつ乃木綿不毎る暑うれ
呈露江ム餞
供うくの鞘あつきや無せん松
茶暑し現ち茸の松く園の凱
月ふうくむ一重羽織も浮世茶
何し羽織縮緬八重し紗を絞
昼くうのまく
うくく麻四うふりあつう麻所巾

抱篭や蚊かゝえたる子のよすがら
曲水の旅宿よ湖水をあり出るく
漣や浮みて表裏たゝむ
うちもの風情見なる雲扇哉
紅ゆうもの乃あるの白ひ雲
小町の賛
腰かけて休むちんなる大団扇
破扇の圖
維光ゝ後架へ持し扇うな
鳥飛　紺雲あるさ孔雀哉

孔雀よ風の姫なる扇一の形
あるる所方ゝり蓮出るく扇よ
さんせよとしあるに
鈴虫や浮みて孔雀姫ゆ哉
ゝ出るゝ蓮ゝ金みるくまさ軍
孤のあるる扇よ賛のそまをのよ
涼風や子市をまのく女形
序今はゝ先ゝ上京よ俳
涼ゝまゝく鈴虫ゝ蓮ゝ金
すゝゝ糸泥ぬりあるし　遊ちよ

所見

[illegible]川亀[illegible]

翁[illegible]の文[illegible]

丈山の[illegible]ぬあとを涼うれ

夕菜[illegible]すしむ風の　誓かな

お達を[illegible]て不死の者どもの[illegible]

此[illegible]年老[illegible]形[illegible]夕すゝ[illegible]

布袋の縁

[illegible]ようもを[illegible]起[illegible]夕納涼

[illegible]を[illegible]涼む角あり[illegible]尾

浅草川歳〻吟涼

[illegible]て涼[illegible]郎

他人数[illegible]

[illegible]涼[illegible]安房や上総よ舟[illegible]

[illegible]帆[illegible]

[illegible]人[illegible]手[illegible]綱[illegible]や[illegible]

[illegible]先[illegible]流星

[illegible]

韓退之捨酒吟あり

酒[illegible]納涼[illegible]郎

牛御前

是やこの雨を守人　下ぶくこ
餞久松肅山

筆をさしはさみやかろき下涼
人死子をあくこ
涼しいろ麻こ作ふりそれもめん

画賛

大虚すしし布袋の指さんゆく所
日枝よもあひふ法師を
十八の時邦つるすすしき美人

河原よりく
暁牛さんへ　車一の邦
この松原よりこそ風あり遊涼こ
勘者死月あ有りもし涼こ代
人よまこ暑山龍あ是はこそ

自象

たゝきめて起ひるゝ子すみ
上下こ裸の男後指ふこそこ
解をめくこなす人有
うなゝ糸のこそ中へ墨死甲

とゝ紙にまきの一句ゝ紙廻りの三戸紙に
生れ松原乃ゝ
本芳ゝ流しゝ涼しな味をゝゝれゝう
紙に日次の影をとり紙ハをて
河美姫 徳利もゝゝす 陸の面
遠浦の猟舟 押あゝりしゝこゝ乃
捨のゝゝ入
帆ゝ紙のゝゝ朝霧ハゝゝゝゝ葦ゝ風
夏籠やゝゝゝゝゝゝゝの 栖扨ゝ
子ゝ肩ゝゝゝゝゝゝ 友 日午